

01

JULY 2023

GRASS NEWS LETTER



I GRASS 始動

サステナビリティ国際研究センター（GRASS : Global Research centre for Advanced Sustainability Science）は、前身の極東地域研究センターから 2023 年 4 月に新しく生まれ変わった研究機関です。2001 年 4 月に設立された極東地域研究センターは、経済、社会、環境からなる三つの側面においてお互いに調和がとれた持続可能な社会の実現に貢献できる研究を、北東アジアという地域を対象に行うことを目的としていました。サステナビリティ国際研究センターは、この哲学を継承しながら、北東アジアだけにとどまることなく、世界のどの地域も対象として研究を行なっています。

私たちサステナビリティ国際研究センターの専任教員は、地域研究、GIS とリモートセンシング、農業経済学、社会生態学、保全生物学など、全く異なる分野を専門としております。私たちは、現代社会に求められている課題解決型の科学、サステナビリティ学を発展させるため、分野の異なる研究者がそれぞれ独立に研究を行うのではなく、お互い協力し合いながら学際的な研究を実践できるように、絶えず議論を重ねています。学術的にはまだ発展途上にある研究センターですが、私たちは、様々な障壁を乗り越えて、世界の多くの地域を対象に、持続可能な社会の構築に貢献できる超学際的な研究を行なっていく所存です。

私たち研究センターの略名称である GRASS は、植物や農作物の稲を表すこともあります。水田に植えられた稲がやがてお米をたわわに実らせるように、私たちも成長をし続けて、有意義な研究成果を生み出していきたいと思っています。私たちと一緒に研究や関連する活動を行なって頂ける皆さんのご参加を、いつでもお待ちしております。どうか宜しくお願い致します。



写真. GRASS のメンバー（2023 年 4 月 17 日撮影）

（文責：和田直也）

II 着任のご挨拶

4 月にサステナビリティ国際研究センターの准教授として着任したチャクラボルティ・シャミックです。出身地はインドの西ベンガル州です。前職は、法政大学 Sustainability Co-Creation Programme (SCOPE) の講師でした。私は主に社会生態系の視点から人間と環境の相互作用について研究を行い、日本（里山・里海のサステナブルな利用）、インド、ネパール、バングラデシュ（気候変動対策に自然を利用した適応策、マングローブ生態系保全とサステナブル使用）、フィリピン（都市化に関する開発問題）など国々の生態系において、社会生態系システム、先住民の知識、水資源管理や、生態系サービス評価などの研究に取り組んできました。

現在、アジア太平洋地球変動研究ネットワーク（APN-GCR）の助成による河川流域におけるクライメート・スマート・ランドスケープを強化するための生態系サービスと人間の福利の相互関連の研究に取り組んでいます。この研究プロジェクトではネパールのボカラ大学、バングラデシュのダッカ大学、インド工科大学との共同で行い、先住民及び地元知識を含むマルチステークホルダー・プラットフォームを使用し、地域住民の生計に必要なランドスケープの生態系サービス評価をしています。また、現在、日本学術振興会の科学研究費の助成による「都市緑地空間とその文化的サービスがもたらす人間の福利への影響について」の研究にも取り組んでいます。この研究プロジェクトでは、学際的なアプローチにより、日本の都市を事例として、都市緑地空間の特性（緑量、生物多様性、構成など）と時期、都市住民の価値観が特定の文化的サービスの提供にどのような影響を与えるか、また、それらが利用者や周辺住民の福利にどう影響するのかについて研究を行なっています。

今後の研究課題としては、生物多様性の保全やサステナブルな使用、また人間の福利に生物多様性の影響や、気候変動対策に自然を利用した適応策に関して、どのように「現代の科学的知識」と「先住民及び地元知識」を統合できるかについて研究を進めていきたいと思っています。また、これらの研究に関して、先住民及び地域住民を含む、利害関係者プラットフォームを使用しながら統合的なランドスケープ管理の開発の研究に貢献したいと思っています。

私はこれまで活用してきた教育研究と国際的なネットワークを通じて、科学と社会学の総合力を生かしながら、富山大学と他の研究機関と一緒にサステナブルな社会づくりに貢献したいと考えています。富山大学で新しく設置されたグローバル SDG プログラムでの教育研究活動を通じて、富山で研究できることをとても嬉しく思っています。

（文責：チャクラボルティ・シャミック）

Ⅲ スリカンタ・ヘラート教授をお迎えして

2023年6月23日、GRASSはスリカンタ・ヘラート教授をお迎えし、特別講義 Building resilience for Sustainable water security: Lessons from ancient and modern times を Global Research Seminar Series 2023 において開催しました。

ヘラート教授は、洪水リスク軽減、都市水管理、気候変動の影響アセスメントなどの分野で経験豊かな土木技士としての経験を持つとともに、国連大学サステナビリティ高等研究所でアカデミック・ディレクター/シニア・アカデミック・オフィサーを歴任し、現在はスリランカの Center for Transdisciplinary Research 所長、オーストラリアの Envi Forecasting 所長です。

特別講義には、持続可能社会創成学環の大学院生約14名、本学経済学部学生1名、青山学院大学学部生1名、GRASS スタッフ4名の合計20名が会場に集まりました。ヘラート教授の講義は、スリランカの伝統的な灌漑システムと先端の灌漑システムを地域の実情に合わせてどのようにうまく活用していくかを実学的な視点から解説されました。豊かな事例を画像やコンセプト図で紹介し、学環学生からの質問に、ひとつひとつ丁寧に答え、たいへん教育効果の高い講義になりました。GRASS のイベントが、高いモチベーションで研究を行う本学持続可能社会創成学環の院生たちの高い関心を得たことで、こうしたイベントを院生に提供することも、GRASS の重要な役割であることを再確認できました。



写真：特別講義の様子

特別講義の前に行われた GRASS スタッフとの会合でも、私たちが魅了するユーモアに溢れた話題提供とともに、GRASS の研究の方向性や本学の国際化に向けた豊かな示唆を頂き、有意義な時間を過ごしました。



写真：ヘラート教授と GRASS スタッフ

(文責：堀江典生)

Ⅲ 客員研究員のご挨拶

時の流れは本当に早いものです。私が富山に到着してからすでに9か月が経ちました。今回、センターで受け入れていただき、1年間の在外研究を行うことができて、大変光栄に思っています。

私は北京にある中国石油大学で日本語を指導するとともに、日本研究を行っています。今回の在外研究では、富山大学の馬駿先生の指導のもと、主に中日のカーボンニュートラル政策や主要メディアのエネルギー関連報道についての言語分析を行っています。

大学時代には留学交換の経験もあり、最近でもよく日本を訪れる機会もありましたが、今回は長期滞在ということもあり、研究や日常生活の中で多くの問題に直面し、文化の違いに起因する様々な課題も経験しました。困難な時に馬教授やセンターの皆様から頂いたご助力と配慮に心から感謝しています。

秋の金色のイチョウ、冬の真っ白な雪、春のピンクの桜、夏のカラフルな願い。私は富大で豊かな四季を経験しました。深秋には紅葉を採集し、早春には節分の祈福と登山を楽しんでいます。これらを通じて、中日の共通でありながら独自の特色を持つ風習や文化を体験しました。また、同僚たちの温かさと思いやりを感じることができました。

国際化を追求する富山大学や、深夜まで研究に励む同僚たちの姿に深い印象を受けました。これらの経験は、私の学びと日本での旅の素晴らしい思い出となるでしょう。



写真：私の過ごした富山大学の四季



写真：左から右 2022年11月紅葉狩り；2023年2月節分豆まき；2023年2月呉羽山（本人は左から2人目）

(文責：李 雪梅)

編集後記

GRASS のオフィスは、経済学部棟1階ロビー右手にあります。オフィスは、GRASS メンバーが常に意見交換し、新しい研究や交流を生み出す場となっています。平日9時から午後4時まで運営されていますのでお気軽にお越しください。

(文責：谷口奈那)



〒930-8555 富山県富山市五福3190
研究推進機構 サステナビリティ国際研究センター



<http://www3.u-toyama.ac.jp/grass>